

母校百周年記念で 門柱に原石提供

髓栄の石・(有)長岡石材店

全国で唯一の石材学科コースのある茨城県立真壁高等学校は、真壁町立農学校として明治42年開校、来年初立百周年を迎えるが、教

育環境整備の一環で大型バス乗り入れ施設整備が長年の懸案だった。その進入路の用地買収と整備、門柱の新設、広場の舗装工事を、同窓会が自主事業として実施することが決定。このうち創立百周年記念実行委員会西門新設整備委員会により2年前から門柱設置検討



髓栄の石を使用した門柱



開通式では農場バスを先頭に通り初め

と募金活動などが行われ、このほど竣工した。

この門柱については、同校がみかげ石産地にあるところから門柱を石製とし、原石を同校卒業生の採掘業者に寄付同等で提供を依頼。同校昭和41年3月卒の長岡茂氏(有)長岡石材店の協力により、銘石として誉れ高い「髓栄の石」＝真壁小巨石を使用した。

この石の門柱は、親柱2基、袖柱4基を持ち、門柱加工は表面を小叩きで仕上げ、根石部分は割肌加工。親柱が高さ約3.3m、幅一辺約1.4m、袖柱高さ約2.5m、幅一辺が1.1mで、623切の原石を使用。関係する諸事業にも、同校昭和42年3月卒の寂室増雄氏(株)セキムロ造石)が工事を請け負い、卒業生による奉仕的な協力が

により割安で立派に完成喜ばれた。

11月9日には関係者が列席して進入路とともに石の門柱の完成・開通式が行われ、神事、海老沢昭百周年記念事業実行委員長の式辞、久下英一西門新設整備委員長の工事経過報告、地元中田裕桜川市長の祝辞などに続いて、郡司十三生学校長と渡辺佑介生徒会長が

謝辞。その後代表者のテープカットを行い、同窓会及びPTA関係者、生徒代表の順で通り初め。渡辺生徒会長は「この西門を通じて登校出来ることを誇りに思う」と喜びを語ってくれた。翌日は同校の文化祭でもあり、多数の近隣住民にも新門柱を披露、創立百周年を前に、生徒たちへの共用が開始された。